平成　30　年度

事務事業評価シート

（社会教育・スポーツ課）

総合評価ランク

A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
D	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要

野辺地町教育委員会

目　次

1　一人一人の主体的な学習と社会参加の推進
（　1　）　のへじ元気講座　・・・・・・・・・　38
（　2　）　ハッチョウトンボ観察会　・・・・・・・・・　39
（　3　）　文化賞授与式　・・・・・・・・・　40
（　4　）　馬門公民館教養講座　・・・・・・・・・　41
2　次世代を担う青少年の育成
（　1　）　子ども会事業　・・・・・・・・・　42
（　2　）　ふるさと探偵団　・・・・・・・・・　43
（　3　）　ふれあい通学合宿　・・・・・・・・・　44
（　4　）　在学青年ボランティア　・・・・・・・・・　45
3　地域を支える人材の育成
（　1　）　生涯学習大学　・・・・・・・・・　46
4　学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上
（　1　）　家庭教育推進事業　・・・・・・・・・　47
（　2　）　いのちのお話出前講座　・・・・・・・・・　48
5　社会教育推進のための基盤整備
（　1　）　社会教育団体の支援　・・・・・・・・・　49
子ども会育成連絡協議会、連合ＰＴＡ
地域婦人団体連合会、文化振興協議会の活動支援
6　生涯スポーツの普及・振興
（　1　）　町スポーツ賞、教育委員会スポーツ賞の表彰　・・・・・・・・・　50
（　2　）　健康ウォーターマラソンスタンプラリーの開催　・・・・・・・・・　51
（　3　）　青森県民スポーツレクリエーション祭参加　・・・・・・・・・　52
（　4　）　学校体育施設の開放促進　・・・・・・・・・　53
（　5　）　地域総合型スポーツクラブの検討　・・・・・・・・・　54
（　6　）　水泳教室開催　・・・・・・・・・　55
7　青少年スポーツの振興
（　1　）　スポーツ少年団への支援と育成　・・・・・・・・・　56
（　2　）　町営球場開設記念兼ライオンズクラブ旗争奪中学校野球大会の支援　・・・・・・・・・　57
（　3　）　青森県小学生スキー大会の開催　・・・・・・・・・　58
8　競技スポーツの推進
（　1　）　青森県民駅伝競走大会選手強化支援　・・・・・・・・・　59
（　2　）　町体育協会活動支援　・・・・・・・・・　60
（　3　）　競技スポーツ強化支援事業　・・・・・・・・・　61
9　スポーツ情報の充実
（　1　）　スポーツ史発行に向けて記録等の情報収集及び保存　・・・・・・・・・　62
（　2　）　スポーツカレンダーの発行　・・・・・・・・・　63
10　社会体育施設・設備の整備・運営
（　1　）　体育施設の総合的な修理修繕と運営　・・・・・・・・・　64

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	のへじ元気講座	担当者名	清水目　唯那

事業の目的・内容	参加者の自主的な学習意欲を促進し、相互交流・社会貢献を通して地域活性化を図り町を「元気」にすることと、参加者一人ひとりが生きがいを見つけ「元気」な生活を送るための心と体の健康づくりを目的に実施する。年間受講料1,000円を徴収している。 収入　受講料・昼食代・繰越金　101,034円 支出　講師謝金・昼食代　101,032円			
事業の対象	成人（年7回、受講者52名、延べ受講者146名）			
事　業　費	年　度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
	金　額	105 千円	102 千円	50 千円

事業の実績・成果等（数値）	５月３０日（水）講話「～異文化理解～」講師：河島靖岳教育長 ６月２１日（木）講話「縄文くららとのへじ祇園まつり」講師：山崎杏由 氏 ７月２４日（火）町外学習「ＪＡアオレン」「津軽藩ねぷた村」 9月２８日（金）運動教室「フライングディスク・ペタンク体験」青森県レクリエーション協会　三浦　良子氏・長谷川　和子氏 １０月１８日（木）音楽交歓会「町内小・中音楽交歓会」会場　野辺地小学校 １１月３０日（金）特別講座「昔遊び会」野辺地小学校の児童（１年生）へ受講生が講師となり遊び方を教える １２月１９日（水）「しめ縄・しめ飾づくり」とわだグリーンツー・リズム研究会　久野 礼子 氏 ・ 竹ヶ原 祐子 氏

事業の評価（自己評価）			
	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	４年目となる本講座では多くの方に参加していただくことが出来たが、延べ受講者数が減少傾向にある。 今後も受講生のみなさんが元気になることと、活動を通して町を元気にすることを目的に、受講生からの意見を参考に、講座内容を工夫し、より幅広く学習・活動できる場を提供していきたい。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

参加人数が多いのはいいことだが、男性がほとんど参加していないとのことなので、男性向けの講座を検討してほしい。
男性と女性の両方が参加できることは、それはそれでいい点があるとは思うが、参加者を男性と女性で限定した講座をやることも検討してみてはどうか。

評価委員意見（平成30年度）

・男性が参加できるような内容を取り入れてほしい。

・受講方法も単発で受講できるような仕組みを考えてはどうか。

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	ハッチョウトンボ観察会	担当者名	清水目　唯那

事業の目的・内容	青森県レッドデータのＡランクに指定されている「ハッチョウトンボ」の生息地を保護し、自然環境を保護するとともに、生態について学ぶことを目的として観察会を実施。 平成２８年度から町内小学校３年生を対象に総合的な学習として実施。			
事業の対象	一般			
事　業　費	年　度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
	金　額	10 千円	10 千円	20 千円

事業の実績・成果等（数値）	野辺地町スキー場　あったかハウス前にあるハッチョウトンボ生息域を、ロープで侵入を規制（６月～11月）し、トンボが生息できる環境づくり・保全を行っている。 今年度も、文化財保護審議委員の高沢岩男氏を講師に招き観察会を実施する予定だったが、荒天となり中止となった。 次年度３・４年生対象に実施することとした。 日　時：平成３０年７月１２日（金）予備日：平成３０年７月１７日（水） 参加者：小学生８４名　一般：１名　　計９２名

事業の評価（自己評価）			
	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	委員会内の他事業との連携により、一般の参加者も増となっていたが、今年度参加予定者が１名となった。協働・連携を持続するために、活動の情報を共有・発信することが必要。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

担当者は準備などよくやっている。
悪天候で中止になった学年は、次の年に参加させてほしい。
悪天候になった時でも、写真や動画などを用いてハッチョウトンボについて学習できるような対応をしてはどうか。
子どもたちも大事だが、一般の方々に普及させることも重要だと思う。どんどんＰＲしてほしい。
馬門地区の人でも知らない人がたくさんいる。
ハッチョウトンボの小さいネクタイピンなど作ってみてはどうか。トンボは、後退せずに、前にだけ進むという、いい意味がある。

評価委員意見（平成30年度）

・一般参加者は、教員「ふるさと研修」時に一緒にするなどして、小学生と切り離してはどうか。

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	文化賞授与式	担当者名	玉山順一

事業の目的・内容	文化活動において優れた業績をあげ、町の文化振興に寄与した方を表彰する。
事業の対象	町民一般

事　業　費	年　度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
	金　額	105 千円	53 千円	123 千円

事業の実績・成果等（数値）	・１２月１９日　小中学校、関係団体に推薦依頼 ・　１月２８日　表彰審査会（７人）、受賞通知（表彰者） ・　２月２１日　授与式　１６時～１７時　中央公民館ホール ○町文化賞 ①文化賞（個人）　２名　②文化奨励賞（個人）　３名 ○教育委員会文化賞 ①文化優秀賞（個人）５５名　（団体）１団体

事業の評価（自己評価）			
	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	受賞対象となる個人・団体部門における申請提出。 その作品発表の時期により申請提出期限日を経過することがある。 今後とも柔軟な対応が必要。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		A	B	A	A	A	A

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

どんどん表彰していただけばと思う。子どもたちの励みになる。
審査基準はあるとは思うが、柔軟に対応していただきたい。
小学生は学校で表彰するため、町の表彰式の集合写真に入らないため、学校ごとで写真を撮って広報に載せあげてみてはどうか。ただし、保護者の確認等の対応が必要だと思う。

評価委員意見（平成30年度）

・文化賞とスポーツ賞を合同で行う取り組みは良い。

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	馬門公民館教養講座	担当者名	石田　晃

事業の目的・内容	趣味と教養を高めるとともに、仲間づくりのため開催する。 開講時期　６月～１０月
事業の対象	成人

事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	受講者負担（24）　千円	受講者負担（26）　千円	受講者負担（30）　千円

事業の実績・成果等（数値）	・講座内容（人数）　ダンス（９人）、着付け（８人） ・受講料　１講座１，５００円 ・講師謝金は、受講料で支出

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	発表や作品の内容が充実している。 参加者の意欲は高く、講座期間外にも自主的に活動が行われている。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

長年継続していて素晴らしいと思う。
次の指導者の育成も大事だと思う。

評価委員意見（平成30年度）

・講座継続のためにも、指導者育成に努めてほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	子ども会事業	担当者名	清水目　唯那

事業の目的・内容	子どもたちの健やかな成長と青少年の育成を目的として実施。 ・子ども会の加入状況 幼児3名、小学生147名、中学生6名、高校生1名　計 157名			
事業の対象	子ども会　会員			
事　業　費	年　度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
	金　額	314 千円	194 千円	251 千円

事業の実績・成果等（数値）	・子ども会わくわくサマー体験 平成30年8月11日　場所：小川原湖水浴場、小川原湖青年の家 子ども：24名　大人：27名　計：51名 ・創立50周年記念事業 平成30年11月25日　場所：野辺地町中央公民館 タイムカプセル事業　子ども会員、保護者　86名参加 記念式典　67名　　祝賀会　64名

事業の評価（自己評価）			
	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	サマー体験に関しては４年連続で同様の内容が続いているため、次年度は活動内容について見直しが必要となる。 創立50周年記念事業については協力者の数も多く、全体を通してサポートしていただいたおかげでスムーズに進めることができた。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	A	B	B	A	A

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

いまだに子ども会の事業を、町で組んでいることがすごいと思う。
小学生の加入率が３割程度と少ないなか、頑張っていると思う。
高校生くらいの人がお世話をしてくれると、子どもたちもなついていいと思う。
毎年子ども会がなくなって大変だと思う。
人数は少ないが、携わっている方々は一生懸命に活動しているので、高校生などをリーダーにするような研修会を受けてほしい。思いはあるがどう行動してよいか分からない子どももいる。
子ども会によっては、中学生になると声が掛からなくなるというところもあるらしいが、そうではなくて子どもが継続して活動できるようにしてほしい。

評価委員意見（平成30年度）

・高校生、中学生がリーダーとなって、小学生の面倒を見るような伝統を作っていければ、小中高連携にもつながる。

・担当されている方々の努力が見えます。手伝いボランティアなど、中高、社会人、高齢者までつなげれればなお良い。

・子ども会の事業や活動内容がわかるニュース（情報）が知りたい。子ども会新聞とかあれば良いと思う。

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	ふるさと探偵団	担当者名	清水目　唯那

事業の目的・内容	町の良さを知って郷土愛を深め、誇りを持たせるとともに、子ども同士のコミュニケーション能力を育成する事業を実施。			
事業の対象	小学３年～中学生			
事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	15 千円	0 千円	15 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成30年度のテーマは「町の商業・歴史」をテーマとして実施する予定だったが、実施できなかった。

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	□ おおむねできている	■ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	□ おおむね達成できている	■ 達成できてない
自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い	
評価説明及び考察、課題	人材育成の面でも重要な事業となるため、史跡以外にも観光、特産品など対象を様々なテーマで実施していきたい。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	C	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		C	C	C	C	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

周知は小・中学生までとなっているが、高校生にも周知して、幅を広げてもいいと思う。色々なアイディアが出ると思う。以前に参加して、高校生になった子どもたちがいいお世話係になるかもしれない。ずっと続いている事業なので、その面を生かさないともったいない。

総合学習のような感じで、すごくいいと思うのだが、参加人数がやはり少ない。

同じテーマで何回か続けると、深い学びになり、より町のよさに気づくきっかけになるのではないか。

北前船も来たので、そういったことについて実施しても楽しいと思う。

今回はテーマが「石」だったが、子どもたちが興味を持つか疑問だった。町にとっては歴史がわかる大事なものかもしれないが、子どもの視点に立って、魅力的なテーマを考えてほしい。アピールの仕方に工夫が必要だと感じた。

評価委員意見（平成30年度）

・小中高校生を集めたいのであれば、子ども会事業で行うのはどうか。

・ふるさとを大切に思う心が育つことは続けていってほしいです。

・楽しいワクワクするようなアピールが子ども視点で必要だと思う。

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	ふれあい通学合宿	担当者名	荒谷成美

事業の目的・内容	２泊３日で宿泊して通学をし、助け合って活動することで、身の回りのことなどの居・食・住を自分でできるようにし、自立心の養成や団体生活を通しての交流を図ることを目的に実施する。			
事業の対象	小学生、中学生			
事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	138 千円	139 千円	159 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成３０年８月３０日（木）～９月１日（土） 野辺地町中央公民館 ８月３０日…開会式、買い物、夕食調理、入浴、宿題・自主学習 ８月３１日…朝食調理、夕食調理、入浴、花火 ９月１日…朝食調理、館内清掃、エコキャンドルづくり、流しそうめん、感想文作成、閉会式 参加人数：２２人 （野小１４人、若小３人、馬小１人、野中３人、高校生１人） （男女内訳　男子　６人　女子１６人）

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	中・高校生がリピーターとして参加し、小学生のお兄さんお姉さん的存在として良い刺激を与えている。 実施日については、各校と毎年調整して実施する必要がある。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		A	A	A	A	B	A

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

９月の一週目は学校行事で宿泊合宿があるので、８月中にやってもらった方がよい。
馬門小学校の児童の参加が少ない。やはり少人数で参加しづらいと思うので、参加しやすくなるような取組をお願いしたい。大人の人でも仕掛け人になるような人はいないか。子どもたちが親しみやすい人がいれば参加しやすくなるのではないか。
小学生の頃参加していた中学生が継続的に参加しており、世話人としても活躍しているのがよい。そのままジュニアリーダーになってくれるとありがたいと思う。
当初は３年程度の事業であったが、継続して実施しているのはいいと思う。
３Ｂ体操は子どもたちも張り切って取り組んでいた。

評価委員意見（平成30年度）

・衣食住の自主的活動なら、森林総合センターでの実施が最適なのでは。
移動手段はバス移動で。

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	在学青年ボランティア会	担当者名	清水目　唯那

事業の目的・内容	高校生（野辺地高校・野辺地西高校）を対象としてボランティア意識を醸成することを目的として実施。 平成30年9月～平成31年2月 収入　76,741円　　支出　24,028円			
事業の対象	高校生			
事　業　費	年　度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
	金　額	41 千円	25 千円	68 千円

事業の実績・成果等（数値）	①　９月２９日（土）　「町内ゴミ拾い」 新田、寺ノ沢、野辺地小学校前、愛宕公園内のゴミ拾い活動を実施。 ②１１月１１日（日）　「介護老人保健施設のへじ文化祭協力」 子ども向けブース（お菓子つかみ取り・射的）の運営補助を行った。 ③　２月２３日（土）　「一人暮らし老人宅訪問事業」 除雪作業や手作りのお菓子配布を通して、地域交流を図ると共に高校生のボランティア精神の育成を図った。

事業の評価（自己評価）			
	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	参加者は減少傾向にあるが、参加した生徒は積極的に活動してくれている。今後も高校生の意見を取り入れ、高校生が活躍できる場・内容を検討し、事業を展開していきたい。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	C	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

各高校のボランティア部に声をかけているらしいが、それぞれのボランティア実施毎に広く募集する方がいいと思う。子どもたちにもそれぞれ都合があるし、進学に向けて行っておきたいと思う子どももいると思う。

評価委員意見（平成30年度）

・目的は大賛成。ただ、ボランティア活動だけでなく、終了後の交流活動等の楽しいこともなければ、持続も難しいのでは。

事務事業評価シート

施　策　名	地域を支える人材の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	生涯学習大学	担当者名	荒谷　成美

事業の目的・内容	体系的な高度な学習内容の講座を開設し、町民の生涯学習及び社会参加活動による生きがいの創造を推進するとともに、学生が地域活動のリーダーとして活躍することを目指し実施した。 平成５年度事業開始し、２５年目となる。
事業の対象	成人（年間登録制）

事　業　費	年　度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
	金　額	受講者負担（94）　千円	受講者負担（76）　千円	70 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成30年7月～12月　18：00～19：30　図書館ほか　受講料2,000円　受講者数36名　延163名受講 ①『伝えたいのは郷土愛』津軽笛演奏者　佐藤ぶん太、氏 ②『江戸時代の恋愛』東洋大学　教授　中山尚夫氏 ③『原子力に関する意見交換会』※防災安全課主催 ④『小遊三のイキイキ人生』（町外研修）落語家　三遊亭小遊三氏 ⑤『能力アップのためのビジョントレーニング』トータルビジョントレーニング協会　千葉　敦子氏 ⑥『ふれあい教育フェスティバル』家読・読み聞かせ　藤島　由美氏　他 ⑦『世界が認める「青森ブランド』ってなんですか？』 青森県企画調整課　三浦　和氏

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	新規参加者の増加や学習の継続がされている。 毎戸配布での周知のほか、若い方向けにSNS等で周知を図り、幅広い世代へ学習の場を提供していきたい。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		A	A	A	A	B	A

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

事業開始２４年目の事業で、２２年生の方もいるというのはすごいと思う。
様々な内容の講座を実施し、工夫されていていいと思う。
各分野で活躍されている方々が分かりやすく、濃いお話をしてくれるので、参加者も毎回期待して参加している。
若い人たちの参加が少ないのが残念なので、チラシなどで広報はしているが、例えば参加者の感想なども紹介してみてはどうか。
参加者にアンケートを事前にとって、受講者が希望するテーマについての講座を実施しようとしているのがよい。

評価委員意見（平成30年度）

・工夫した講座内容で良いと思う。

・著名人を数年に１回でも呼んでほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	家庭教育推進事業	担当者名	清水目　唯那

事業の目的・内容	参観日や保護者会等の保護者が多く集まる機会に保護者または園児・児童を対象として家庭教育に関する講座を実施している。実施場所は小中学校・幼稚園・保育園。 開催時期　平成30年7月～平成30年10月 参加者数　約235名（園児・児童含む）
事業の対象	幼児・児童とその保護者

事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	25 千円	30 千円	74 千円

事業の実績・成果等（数値）	①７月　４日（火）馬門小「３Ｂ体操で親子のきずなアップ！！」 講師　織田　恭子氏　浅野　裕子氏 ②９月１４日（金）カトリック幼稚園　「祖父母と３Ｂ体操」 講師　浅野　裕子氏 ③９月２８日（金）わかば保育園「親子で３Ｂ体操」講師 浅野　裕子氏 ④１０月６日（土）野辺地保育園「親子で３Ｂ体操」講師 浅野　裕子氏

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	参加保護者からのアンケート結果をみても、本講座への満足度は高いと思う。 今後の課題としては、各校や園が要望するもの以外に、県の派遣事業等の情報収集を行い、事務局が情報提供や提案できる態勢等の工夫をしていきたいと感じた。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

各実施主体にお金を出しているのはありがたいと思うのだが、残念なことに、保護者の方々の参加が少ない。なるべく参観日などに合わせてやっているのだが、その時間になると帰ってしまう。

評価委員意見（平成30年度）

・幼児教育はますます重要になっている。もっと子育てに関する取組みが必要。スマホを預けて静かにさせている親が多すぎる。

事務事業評価シート

施　策　名	学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	いのちのお話出前講座	担当者名	清水目　唯那

事業の目的・内容	町内３小学校合同で４学年とその保護者を対象に、男女の体の違いや妊娠・出産の知識を正しく伝えることで性と心の教育及び親子の絆を深めてもらうための講座を実施。 委託料　37,800円（消費税・交通費含）協力妊婦謝礼　4,930円（町のお菓子）消耗品費　34,841円 ※健康づくり課を通して県より全額補助を受けている（平成２８年度～）
事業の対象	町内４学年児童とその保護者

事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	78　千円	78　千円	78　千円

事業の実績・成果等（数値）	対象：町内３小学校４学年とその保護者 人数：121人（児童89人・保護者17人・教員9人） 講師：青森県助産師会「いのちのお話プロジェクトあかり」 会場：馬門小学校　講堂 （会場校は若葉→野辺地→馬門の順に持ち回り） 健康づくり課を通して町内在住妊婦へ、講座内で胎動の心音を聞かせていただく協力を要請している。なお、平成２８年度より協力妊婦へ謝礼として町商品券を渡している。

事業の評価（自己評価）			
	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	平成２８年度より県補助を受け、委託業者への委託料と交通費、協力妊婦への謝礼を計上している。 出前講座では、保護者から児童への手紙や、実際の胎児の心音を聞くことで、命に対する理解を深め、出産時やいのちの大切さを振り返る良い機会となっている。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

それぞれの学校で実施してほしい。保護者の参加がやはり少ない。保護者は、会場校が自分の子どもが通っていない学校だとなかなか行かないと思う。予算や養護教諭の負担など、考慮しなければならないと思うが検討してほしい。
このようにお金を出していただいているのは、ありがたいと思うので継続してほしい。

評価委員意見（平成30年度）

・町で予算をつけているのは大変良いこと。学校予算では、高額すぎて呼べない。

事務事業評価シート

施　策　名	社会教育推進のための基盤整備	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	社会教育団体の支援	担当者名	清水目　唯那

事業の目的・内容	社会教育における青少年健全育成及び文化活動等を推進するため、団体が行なう事業について、補助する。また、団体事業を支援する。
事業の対象	社会教育団体

事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	477　千円	427　千円	429　千円

事業の実績・成果等（数値）	団体補助金 ①子ども会育成連絡協議会　100,000円　②婦人団体連合会　28,000円 ③文化振興協議会　134,000円　④連合ＰＴＡ　100,000円 ⑤在学青年ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ会　25,000円　⑥文化少年団　10,000円 ⑦子ども会創立50周年事業　30,000円

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	・緊急メールへの登録は、保護者の理解により、約９割が登録し、台風時の緊急連絡や行事連絡で活用されている。 ・各団体の活動者の無理のない世代交代が必要と思われる。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		A	A	A	A	B	A

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

様々な団体にお金を出してもらってありがたいと思う。
連合ＰＴＡへの補助金のうち、緊急メールシステムに係る経費として出ている部分があるが、連合ＰＴＡの収入がどんどん減っている状況なので、緊急メールシステムを無料のものに変えた際には、それ以外の部分でも使えるようにしてほしい。

評価委員意見（平成30年度）

・現在の緊急メールの会社はあまり良くない。もう少し、使い勝手の良いメール会社を希望する。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	町スポーツ賞、教育委員会スポーツ賞の表彰	担当者名	玉山順一

事業の目的・内容	スポーツ競技大会において優れた成績をおさめた者を表彰し、野辺地町のスポーツの普及、振興を促進することを目的とする。
事業の対象	野辺地町表彰規則による（町民他）

事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	331 千円	287 千円	411 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成３１年２月１５日（木）　１６時～１７時　中央公民館ホール 県大会以上の大会で優秀な成績をおさめた者、及び町のスポーツ振興に寄与した者を野辺地町スポーツ賞として表彰した。また、郡大会以上の大会で優秀な成績をおさめた者を野辺地町教育委員会スポーツ賞として表彰。 町：スポーツ功労賞２名　スポーツ大賞２名 スポーツ賞（個人）１２名（団体）４団体 スポーツ優秀選手賞（個人）１４名（団体）５団体 委員会：スポーツ奨励賞（個人）１３名（団体）６団体

事業の評価（自己評価）			
	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	25年度に表彰規程の見直しを行った結果、選考基準が受賞の明確化につながってスムーズに審査できる。 昨年度まで受賞する個人・団体が増加の傾向にあった。 受賞する選手・団体の励みや競技力の向上につなげたい。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

子どもたちの励みになると思うので、継続して実施してほしい。

評価委員意見（平成30年度）

・文化賞とスポーツ賞を合同で行う取り組みは良い。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	健康ウォーターマラソンスタンプラリーの開催	担当者名	石田　晃

事業の目的・内容	健康増進及び運動不足解消を目的に多くの町民の参加を募集し、町民の健康維持の一助となることを目的とする。野辺地町から仙台市までの距離（４００キロ）を完歩することを目標にし、自分のペースでプールの中を歩く。配布しているスタンプカードに当日歩いた距離を記入し、スタンプを押して記録する。実施期間終了後に最終結果を掲載した完水歩証を配布し、上位５位に施設無料券を贈呈する。なお、参加者は施設使用料が４１０円から２１０円になる。
事業の対象	２０歳以上の町民

事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	22 千円	22 千円	22 千円

事業の実績・成果等（数値）	期　　間：平成３０年７月１８日（水）～平成３１年３月１０日（日） 場　　所：野辺地町屋内温水プール「サンビレッジのへじ」 参加者数：１１２名

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	町民がスポーツ活動を始めるきっかけになっており、普段施設を使用しない利用者が施設を活用してスポーツ活動に取組んでいる。 参加者からも健康になった、運動が習慣化した、友人が増えたとの声が上がっている。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		A	B	B	A	A	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

平成２９年度は４００キロを完歩できた人がいなかったようなので、単年度ではなく複数年の累計でも完歩できたら、何かあげてもいいのではないか。何年かかけて沖縄を目指すなど、継続してくる理由にもなる。

評価委員意見（平成30年度）

・料金が半額になるということで利用しやすいが、期間限定のフリーパスがあれば良い。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	青森県民スポーツレクリエーション祭参加	担当者名	金ヶ崎春明

事業の目的・内容	広く県民にスポーツ・レクリエーション活動の場を提供し、県民一人ひとりの活動への参加意欲を喚起するとともに、県民の生涯を通したスポーツ・レクリエーション活動の実践を図り、もって健康で活力ある生活に資することを目的としている。
事業の対象	野辺地町の各種レクリエーション団体が参加

事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	30　千円	36　千円	36　千円

事業の実績・成果等（数値）	第１１回青森県スポーツ・レクリエーション祭への参加 平成３０年７月１日（日）７月７日（土）８日（日）主会場：青森市ほか 参加競技（７団体８０名参加） ①グラウンド・ゴルフ競技　15名　②ふれあいボウリング競技　2名 ③マスターズ陸上競技　3名　⑤レクリエーションダンス競技　20名 ⑤ターゲット・バードゴルフ競技　5名　⑥フォークダンス競技　12名 ⑦3Ｂ体操競技　23名

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	生涯スポーツについては、各団体において活動に積極的に参加しており非常に良い方向に進んでいると思われる。 この事業目的により、参加者は、楽しんで参加している。 参加団体は１団体、参加人数が３名減少した。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	A	B	B	C	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

前年と同様で、団体、一般に対して、もっと周知を図ってほしい。
年々参加者も減少しており、人集めが大変だと思うががんばってほしい。

評価委員意見（平成30年度）

・参加方法を明確にして、広報等で周知してほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	学校体育施設の開放促進	担当者名	石田　晃

事業の目的・内容	スポーツ活動の普及・振興を目的として町内小・中学校の体育館、校庭を児童・生徒が使用していない時間に開放する。 年間で使用する団体へは一年毎に申請書を提出してもらうこととしている。
事業の対象	町民

事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成３０年度　年間利用 利用団体　１６団体 利用回数 若葉小学校　２９１回 野辺地小学校　４３６回 馬門小学校　５７回 野辺地中学校　７４回 計　８５８回

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	多くの団体が体育館を利用し、活動が行われている。 利用マナーについては改善されてきていると感じているが今後も注意を促していきたい。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	A	A	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

学校としては、きれいに使ってくれるのであれば、いくらでも使ってほしいと思う。たまにあるのが、小さいお子さんが来た時に、お菓子のごみがあるのが気になる。また、普段児童には立ち入らせない場所に侵入していたというのも聞こえてくるので、そういった部分のマナーは配慮してほしい。
小さいお子さんから大人まで幅広い年代の人々の体育施設として開放していることは良い事だと思う。

評価委員意見（平成30年度）

・各種スポーツ団体にとっては、体育館の開放は大変助かっている。
今後も気持ち良く使えるように、利用団体にマナー順守を再度呼び掛けてほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	地域総合型スポーツクラブの検討	担当者名	玉山順一

事業の目的・内容	当町の各スポーツ団体との連携を強化し、地域住民にも理解を求め、それぞれが有する課題等の共有、解決を図りながら、町のスポーツの方向性を検討する。
事業の対象	町民全般

事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	・平成２８年度－年度末に地域総合型スポーツクラブに関する研修会を開催。 ・平成２９年度－新たな試みとして、高齢者のスポーツに関するニーズを調査するため「カスタムメイド健康づくり事業」（県事業）を活用、１１月から２月に全４回の健康体操講座を開催。 ・平成３０年度－南部町、田子町の実施状況を視察研修。 それぞれの運用方法を確認。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	カスタムメイド健康づくり講座を２か年で実施。 参加者は、高齢者対象、１５０名余	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	A	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

小学生も対象にしながら、是非進めていってほしいと思う。色々なスポーツを体験できるようになるし、町のスポーツの核であるスキーなどをやる子どもたちがどんどん減っているので、冬はスキーとか、季節によってやるスポーツを変えることができるようになればいいと思う。

様々な利点があると思うので、立ち上げるまで大変だと思うが、がんばってほしい。

評価委員意見（平成30年度）

・小さい頃からのスポーツ体験で、将来、スポーツするかが決まります。子どもの総合スポーツクラブがあれば良い。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	水泳教室開催	担当者名	石田　　晃

事業の目的・内容	幼児・児童を対象に、安全かつ楽しく水泳し水に慣れること及び泳力技術向上を目的に前期と後期の二期にわたる水泳教室を開催する。 講師はウィング青森より２名が派遣されている。 参加料　幼児１，５００円　児童１，９００円（児童は入館料４００円含む） 募集定員人数 　前期　幼児　４０名　児童　６０名 　後期　幼児　２６名　児童　４０名
事業の対象	幼児・児童

事　業　費	年　度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
	金　額	322 千円	322 千円	416 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成３０年度実績　（毎週木曜日実施） 前期　第１グループ 5/25～6/21　第２グループ　6/28～7/19 後期　9/6～27 参加人数　前期　幼児　３４名　児童６０名 　　後期　幼児　２６名　児童３２名　　計　１５２名

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	Ｈ２９年度に続き幼児の参加者が定員に満たなかった。また、児童についても後期日程で定員割れが発生した。水に慣れることと楽しく水泳をすることを第一の目的に実施してきていたが、更なる泳力向上を求めている小学生参加者が増加していることから、今年度は定員人数と実施日、カリキュラム等を変更し、継続実施する。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

町の施設を有効に使いながら、子どもたちに体験をさせていて、いい事だと思う。
以前はすぐに申込みしないといけないくらい参加者がいたが、少なくなっていてびっくりした。
これで泳げるようになる子どもたちも多いし、いい事業だと思う。
回数頻度がもう少し多ければ、参加できる機会が増えると思うので、実施回数について検討してほしい。

評価委員意見（平成30年度）

・参加料を幼児1,000円、児童1,500円くらいにできないか。プールに適した人数はあると思うが、参加料が少々高い。

・体を動かす機会の減る冬にも実施してほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	青少年スポーツの振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	スポーツ少年団への支援と育成	担当者名	荒谷　成美

事業の目的・内容	子どもがスポーツしやすい環境をつくり、スポーツを通して団体行動や仲間づくりに励む場を提供することで学ぶ機会を与える。 平成３０年度登録状況 団数　１０団　　登録者数　１９２名 指導者数　４１名　（うち有資格者指導者数３３名） ※平成２９年度より団員の登録が３歳から可能となった。			
事業の対象	小・中学生、指導者			
事　業　費	年　度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
	金　額	676 千円	864 千円	600 千円

事業の実績・成果等（数値）	町スポーツ少年団の事務局として、団員の登録申請や各スポーツ少年団大会申込をおこなう。 また、各単位団に大会参加料や活動費にあててもらう為、補助金を配布する。 ・団体割　…町スポ少へ登録している団体へ助成 ・団員割　…　　〃　　人数によって助成 ・認定員講習会参加費…資格取得のための講習会に参加した方への助成

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	平成30年度より町民応援事業として各単位団への補助金額が増額となった。 令和2年度より指導者の資格制度が大幅に変更になる予定。 年々少子化の影響等により、登録人数が減少しており、単位団によっては、子どもの人数が減り、活動が難しくなっている団もある。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	A	B	B	A	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

活動する団体とすれば、こういった活動費などのお金をいただけるのはありがたいと思う。

評価委員意見（平成30年度）

・手厚く支援していると思います。

事務事業評価シート

施　策　名	青少年スポーツの振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	町営球場開設記念兼ﾗｲｵﾝｽﾞｸﾗﾌﾞ旗奪取中学校野球大会の支援	担当者名	石田　晃

事業の目的・内容	野辺地中学校をはじめ、近隣町村の中学校も招待し、大会を開催する。野球競技を通じて、各校の交流を図るとともに、チームの団結力及び競技力向上を目指す。
事業の対象	中学生

事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	16　千円	17　千円	17　千円

事業の実績・成果等（数値）	日　時：平成３０年４月２８日（土） 場　所：野辺地町営球場 参加校：野辺地中、東北中、上北中、六ヶ所第一中、六ヶ所第二中、横浜中、千歳中、泊中　８校４チーム 優　勝・・・六ヶ所合同チーム ※六ヶ所第一中、六ヶ所第二中、千歳中、泊中の合同チーム 準優勝・・・東北中・野辺地中合同チーム

事業の評価（自己評価）			
	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	シーズン序盤のチーム力を図る大会として、各校の参加意欲の高さが見受けられるが、少子化により部員数の減少がみられ、チームを組めない学校があったため、混合チームでの参加を認めている。 今後、混合チームでの参加が見込まれ、チーム数が減少することが考えられるので、運営面について協力団体と協議が必要である。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

今後チームが少なくなっていくのであれば、高校生を呼ぶなどして、野球教室を一緒に開くのもいいと思う。
シーズン初めの試しになるので大事な大会だと思う。
子どもたちの数も減り、チームも減っているのでやり方も変えていかなくてはいけないと思う。

評価委員意見（平成30年度）

・シーズン最初の大会であるため、チーム数の減少等はあると思うが、継続してほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	青少年スポーツの振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	青森県小学生スキー大会の開催	担当者名	石田　晃

事業の目的・内容	スキーを通じて児童の健全育成及びスキー技術や資質の向上を目標とし、スキーの町、野辺地町を全県的に広報しながら、実行委員会を中心に町をあげて応援、実施するものである。			
事業の対象	県内小学生３～６年			
事　業　費	年　度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
	金　額	1,397　千円	1,309　千円	1,410　千円

事業の実績・成果等（数値）	期　　日：平成３１年２月２日（土）、３日（日） 場　　所：国設野辺地まかど温泉スキー場 競技種目：距離競技、大回転競技、リレー競技 参 加 校　４１校　　参加人数　１２０名 12/7　第１回実行委員会 1/24　第２回実行委員会 1/30　陸上自衛隊第５普通科連隊と支援に関する協定書締結 3/15　第３回実行委員会

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	平成２７年度より距離競技３年生の部を設置以来、参加者の減少が停滞しつつある。 しかし、リレーチームを組めない状況にあるので、オープン参加による混合チームでの参加を認め、多くの子ども達が参加できる機会が与えられるようにしている。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		A	B	A	A	B	A

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

人が減ってなかなか難しいとは思う。
学校対抗だけでなく、オープン参加を認め、子どもたちが参加しやすいようにしているのがよい。
なんとかスキー発祥の地として頑張って継続してほしい。
県内でも少しずつこういった大会が減っているので、広報などで町民に協力を募って盛り上げていってほしい。
スキー関係者と一般の人との間に少し壁があると感じるので、その部分をつなげてくれる方がいるとありがたいと思う。

評価委員意見（平成30年度）

・まかどスキー場を持つ野辺地町としては、スキー大会は無くせない行事だと思う。

・各小学校でスキー競技の選択にバラツキがあります。

事務事業評価シート

施　策　名	競技スポーツの推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	青森県民駅伝競走選手強化支援	担当者名	金ヶ崎春明

事業の目的・内容	県主催の市町村対抗駅伝競走大会である。 各学校の陸上部、スキー部顧問、アスリートクラブ等で実行委員会を組織し、参加対象者の中学生、高校生、一般選手を育成して、町選手団として大会に臨む。			
事業の対象	中学生・高校生・一般			
事　業　費	年　度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
	金　額	612 千円	649 千円	640 千円

事業の実績・成果等（数値）	期日：平成３０年９月２日（日）青森市 結果：総合の部　９位　　町の部　３位 合同練習会　７/３．７/７．８/４　選手選考会　７/14．７/19．７/23 現地試走会　８/15．８/20．８/25 ５／３１　　第１回実行委員会 ７／２６　　県へ選手名簿提出 ８／２１　　市町村代表者会議 ８／２８　　第２回実行委員会兼付添者会議

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	選手、関係者が一丸となり団結して総合力でタイムを縮めた。 町代表選手以外の補欠選手、監督推薦枠選手のバックアップ体制が整いつつある。 成績は、次年度につながる成果であった。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		A	A	B	A	A	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

一生懸命練習しているが、その様子が分からない。そもそも走るメンバーが町民には事前に伝わっていない。
終わった後の報告は広報に掲載されいるが、大会前のメンバー紹介などもあっていいと思う。
他町村では、チラシで出しているところはある。

評価委員意見（平成30年度）

・令和元年度から小学生の部も加わったので、春から強化練習等を行ってほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	競技スポーツの推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	町体育協会活動支援	担当者名	荒谷　成美

事業の目的・内容	当町のスポーツ振興の中核を担う体育協会を支援し、町民の体力・競技力を育てるとともに、スポーツにより町の活性化に資するものである。 平成３０年度　加盟団体　２２　登録者数　７３０名			
事業の対象	一般町民			
事　業　費	年　度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
	金　額	940 千円	1,200 千円	1,200 千円

事業の実績・成果等（数値）	第４１回上北郡総合体育大会参加支援 平成３０年６月２日（土）、３日（日）　七戸町ほか 　競技参加　優勝種目：バスケットボール（男）、柔道、ボウリング 総合成績：７町村中５位 第７３回市町村対抗青森県民体育大会参加支援 平成３０年７月２８日（土）、２９日（日）　三八地域 　競技参加　優勝種目：なし ３０町村中１４位

事業の評価（自己評価）			
	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	各加盟団体では活発にスポーツ活動が行われているが、町体育協会全体としての運営については今後も検討する必要がある。 町民応援事業として、各協会へ補助金が増額となった。 令和2、3年度は上北郡総合体育大会を当町で開催することとなるため準備委員会等の支援を行う必要がある。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	A	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

年々借り上げバスの料金の値上がりなどにより、自己負担のが多くなっているが、組織として、自立できるようになればいいと思う。

評価委員意見（平成30年度）

・予算額が大きいので適正に支出するよう願いたい。

事務事業評価シート

施　策　名	競技スポーツの推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	競技スポーツ強化支援事業	担当者名	金ヶ崎春明

事業の目的・内容	まち・ひと・しごと創生総合戦略登載事業 東北大会、全国大会への出場が決定した町内小中学校、高等学校に在籍する個人、団体に対し、事前の強化合宿及び遠征に必要な経費を助成し、大会での上位入賞を支援するとともに、町の子ども達の目標となる選手の育成及び競技力向上を目指し、活気ある町勢を実現する。 平成２８年度より実施。
事業の対象	町内小学校、中学校、高等学校に在籍する個人・団体

事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	1,326 千円	1,098 千円	1,300 千円

事業の実績・成果等（数値）	申請団体：野辺地中学校２件、野辺地高等学校５件 入賞者：（東北大会）個人１名、団体なし （全国大会）個人１名　団体なし

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	助成対象者にとって、大会参加に当たりパフォーマンス調整がしやすくなり、大会での成績向上の支援策である。 助成対象者がこの助成金を使用すれば、大会参加に向けて多岐にわたる計画を立案することができるため、更なる好成績を期待できる。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		A	A	B	A	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

特になし。

評価委員意見（平成30年度）

・予算額が大きいので適正に支出するよう願いたい。

・個人競技の大会参加にはお金がかかるので、引き続き支援してほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	スポーツ情報の充実	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	スポーツ史発行に向けて記録等の情報収集及び保存	担当者名	荒谷 成美

事業の目的・内容	スポーツの記録等の収集・保存要領（平成９年制定）のもと、スポーツ史発行に向け各団体の情報収集を行う。 町制１００周年記念スポーツ史　平成９年８月２８日　発行 町制１２０周年記念スポーツ史　平成３０年３月発行　１５０部
事業の対象	学校、体育協会、スポーツ少年団

事　業　費	年　度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
	金　額	245 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	年２回（１１月下旬、３月下旬）学校・体育協会・スポーツ少年団へ情報提供を依頼し大会出場記録等をいただいている。 いただいた記録の内容を確認し、収集保存要領に基づき、今後の記念誌作成のための資料を整理する。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	年２回に分けて各団体のスポーツに関する記録を報告いただき、その内容を精査している。保存要領により毎回精査するが、量が膨大であるため、今後記念誌を発刊する際に向けての内容整理が重要。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

町外の人でもほしい人はいると思う。
次のスポーツ史の発行に向けて、データの蓄積が大変だと思う。
毎年、各団体からデータとして提供してもらうなどの工夫が必要だと思う。
紙媒体で提供いただいたものは、一年ごとにデータ化し、内容を各団体に確認してもらった方がよい。
事業の担当者が変わった際の引継ぎが大切だと思う。
字句の誤りがあったので次回の作成の際は、そういったことが無いようにしてほしい。

評価委員意見（平成30年度）

・時代に合った情報管理を。記念誌などよりも、その内容のデータ保存で十分だと思います。欲しい方にはＤＶＤで。

事務事業評価シート

施　策　名	スポーツ情報の充実	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	スポーツカレンダーの発行	担当者名	荒谷　成美

事業の目的・内容	スポーツ推進委員名簿・体育協会名簿・スポーツ少年団名簿・体育施設の情報・大会予定日等を掲載することで、町民の意識を高め、よりスポーツを身近に感じてもらう。			
事業の対象	町民			
事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成２６年度より毎戸配布から施設及び町ＨＰへの掲載としている。 ３月下旬　各団体へ情報提供依頼 ４月中旬　情報整理、カレンダー作成準備 ５月１日　町内各施設へ設置、町HPへ掲載 設置場所 町内公共施設　計245枚　小・中学校掲示用　各１枚　計　249枚

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	町民の方へ、よりスポーツを身近に感じてもらうため、町内スポーツ施設や公民館等の人が集まる場所へ設置している。 令和元年度よりコミュニティカレンダーと内容を合わせた新カレンダーとして作成し、毎戸配布を検討していきたい。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		A	B	B	B	A	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

ほしかったがどこにあるかよく分からなかった。前は毎戸配布だったから助かっていた。

評価委員意見（平成30年度）

・カレンダーの配布場所を教えてほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	社会体育施設・設備の整備・運営	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	体育施設の総合的な修理修繕と運営	担当者名	石田　晃

事業の目的・内容	住民が気軽にスポーツを楽しむことが出来るよう、使いやすく、快適性のある身近なスポーツ施設整備の促進に努める。そのため、スポーツ施設の整備充実を図る。			
事業の対象	社会体育施設（スポーツ施設）			
事　業　費	年　度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
	金　額	24,291 千円	11,076 千円	9,960 千円

事業の実績・成果等（数値）

各社会体育施設修繕　　平成30年度

支出	町立体育館	修繕	1,422,867円	備品購入	534,384円
	運動公園	修繕	491,584円	備品購入	96,120円
	プール	修繕	6,601,676円		
	体育センター	修繕	14,040円	備品購入	330,242円
	あったかハウス	修繕	1,584,942円		

①野辺地町立体育館
施設修繕（水銀灯安定器交換、街灯修繕、消防用設備修繕ほか）
備品：バレーボールネット 1張、空手用シングルマット 44枚、空手用デジタルタイマー 1台ほか
②野辺地町運動公園
施設内修繕（芝刈機、1塁側ネットフェンス一部交換、管理棟屋上ドレン一部シート交換等）
備品：硬式テニスネット 2張
③屋内温水プール
施設内修繕（換気設備改修、床暖房用自動制御機器交換、加温用熱交換器修繕）
④体育センター
施設内修繕（多目的トイレ詰り修繕）
備品：卓球台 2台、防球フェンス 5台、バレーボールアンテナ 3組
⑤あったかハウス
施設内修繕（圧雪者サポートアーム交換）

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	成果：予算の範囲内で工事・修繕・備品購入等が予定通り実施できた。 課題：本年、体育施設において修繕等を計画的に実施しているが、老朽化ですべての施設において突発的な修繕が発生している。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

昨年度と同様の意見です。
・公式の大会など開催できる施設として改修してほしい。
・災害時の避難所としての役割としても考えた整備をしてほしい。
・修繕、工事においては、町内の業者を優先して使ってほしい。
・今後、新築を考えているならば、総合的に使えるような施設にしてほしい。

評価委員意見（平成30年度）

・備品や修繕に関しては、前年度だけでなく、数年間の台帳を見ての購入判断が大事である。